大学生の読書に対する意識と実態

皆川　晶*

The consciousness and actual situation for the reading of college students

by
Aki MINAGAWA*

要　旨

「若者の読書離れ」は、よく耳にする言葉である。実際に大学生と接していると、やはり、「読書離れ」を感じる。それに伴い、長文を読む忍耐力、読解力も欠けているように感じる。そこで、読書に対する意識や読書時間、態度、考え方などを学生に調査することにより、学生の実態を把握し、今後、読書を推進していくために、授業での取り組み方などを検討する材料の一つとして、考えていきたい。

Key Words:　読書、読書量、読書習慣、書評

１．はじめに

大学での授業を通して、大学生の読書離れ、読解力の乏しさをひしひしと感じる。読書は「学びの基礎であり、単なる知識の吸収だけではなく、読解力の向上は学習・研究の質の向上へと結びついている。すなわち論旨を理解し、自らの論理を組み立て、また論文等で表す力の向上」（佐藤・近森・酒井、2007、p. 61）をさせるものである。大学生にとって、読書は勉学のためであり、さらに社会人となるための人格形成や教養を身につけるための手段にもなる。そこで、学生の実態を知るために、図書館の利用や読書に関する調査を行った。読書に対する意識や態度、考え方などを把握することにより、今後、大学教育の中で読書を推進させていくために、どのような手立てが必要になってくるのかを考えていきたい。

*崇城大学非常勤講師

２．調査にあたって

①調査対象
　福岡県のＫ短期大学１年生22名、熊本県のＳ大学１年生119名の計141名。
②調査時期
　2016年１月
③調査内容
（１）本を意識するようになったのは何歳くらいですか。
（２）図書館を意識するようになったのは何歳くらいですか。
（３）１日にどれくらい読書（マンガ、教科書、参考書は除く）しますか。
（４）電子書籍を読みますか。

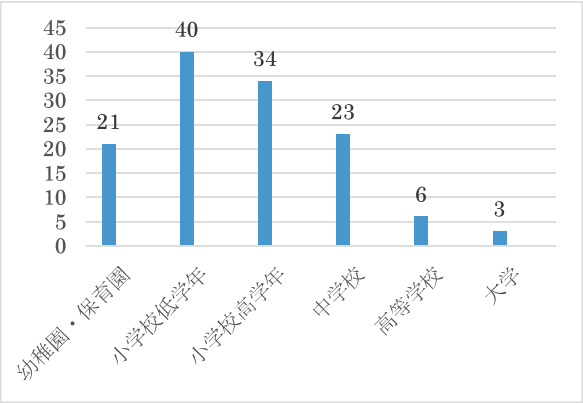
（５）図書と電子書籍ではどちらが読みやすいですか。
（６）読書は好きですか。嫌いですか。
（７）読書することに魅力を感じますか。
（８）平均すると１週間のうち、だいたい何日くらい書店に行きますか。
（９）平均すると１週間のうち、だいたい何日くらい図書館に行きますか。
(10) 本は、書店とインターネット通販のどちらで購入しますか。
(11) この１年間でだいたい何冊くらいの本を読みましたか。
(12) 書評ではどのようなジャンルの作品を選びましたか。
(13) 書評を書くのは、どうでしたか。
(14) 今後、読書をしたいと思いますか。
(15) 今後（大学生として、社会人として）のことを考えると、読書は必要だと思いますか。
(16) １日にスマートフォンはどのくらい利用しますか。
(17) 情報を得る手段として利用しているものは何ですか。

※　授業で書評[1)] を書いたので、(12) (13) の質問をした。
※　（１）（２）（５）（６）（７）(13) (14) (15) (17) は、その理由も問うた。理由は自由記述なので、回答欄に書かれたそのままの表現を記載した。

３．調査結果と考察

調査の結果（理由）は回答の多い順に記載する。問いによっては複数回答がある。ただし、集計にあたって、部分的な無回答を除外したため、集計対象人数は質問ごとに変動している。

（１）本を意識するようになったのは何歳くらいですか。



〈幼稚園・保育園〉　21名

理由	人数
読み聞かせが好きだった	7
家に本があったから	4
絵本・童話を読んでいたから	3
図書館に行っていたから	2
字を覚えたから	1
雨の日の暇つぶし	1
祖母から本の大切さを教わったから	1
楽しいから	1

〈小学校低学年〉　40名

理由	人数
図書館で本を借りるようになったから	9
本を読むようになったから	4
親が読み聞かせをしてくれたから	4
宿題や勉強に必要だったから	3
本が好きだったから	3
親・友達の影響	3
漢字が読めるようになったから	2
朝読書の時間があったから	1
おもしろいから	1
本を読むと学校から表彰されたから	1
なんとなく	1
マンガを読んでいたから	1

〈小学校高学年〉　34名

理由	人数
親・兄弟・友達の影響	7

読書の時間があったから	4
楽しい・おもしろいから	4
本が好きだから	3
読みたい本があったから	3
図書委員になったから	2
担任の先生の勧め	1
家に本がたくさんあったから	1
国語の授業で本を紹介することがあったから	1
読書感想文を書いたとき	1
中学受験がきっかけ	1

〈中学校〉　23名

理由	人数
読書の時間があったから	7
図書館に行くようになったから	3
時間に余裕があったから	3
ケータイ小説を読むようになった	2
本のおもしろさを知ったから	2
図書館の本が多いから	1
塾の先生の勧め	1
本をよく読んでいたから	1
読まないといけないと思ったから	1
文章力のなさを自覚したから	1

〈高等学校〉　6名

理由	人数
毎日読むようになったから	1
ある作家にはまったから	1
哲学の本に出合ったから	1
勉強する場所にあったから	1
本を読んだ方が国語がわかるようになると聞いたから	1
中学のころ、全く読まなかったから	1

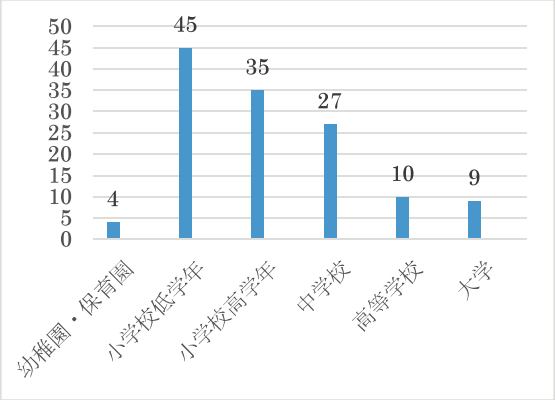
〈大学〉　3名

理由	人数
建築に興味が出たから	1
本から得るものが大きいことがわかったから	1
言語や語彙の勉強のため	1

本について、小学校低学年で31.3%、小学校高学年で26.6%と約6割の学生が小学校で意識するようになったと答えた。理由として、一つの特徴があった。「親や友達、兄弟の影響」という理由であり、身近な人からの勧めなどが本との出合いをつくっている。幼稚園・保育園、中学校、高等学校、大学には、このような「身近な人からの勧め」という理由はなかった。中学校・高等学校・大学には「文章力のなさを自覚したから」「本を読んだ方が国語がわかるようになると聞いたから」「言語や語彙の勉強のため」という、国語力を磨くために読書するという傾向、目的意識をもっていることがわかる。

よって、小学生のころは、読書から得られるような国語力などに結びつくことを目的とはしておらず、身近な人からの勧めや支援などによって読書に、目覚めたと考えられる。さらに、「本が好き」「おもしろい」という自発的な読書により、純粋に読書を楽しんだことがわかる。

（2）図書館を意識するようになったのは何歳くらいですか。



〈幼稚園・保育園〉　4名

理由	人数
親に連れていかれた	1
家の近くにあったから	1

〈小学校低学年〉　45名

理由	人数
小学校に図書館があったから	12
親・兄弟が連れていってくれた	7
地域の図書館を利用した	6
宿題・勉強をするため	3
図書館が好きだったから	2

移動図書館が来ていたから	2
友達と行くようになった	2
好きな本があったから	2
無料だから	2
たくさん本があるから	1
授業で利用したから	1
暇だったから	1
冬は暖かいから	1
何かあったら図書館に逃げていた	1
なんとなく	1

〈小学校高学年〉　35名

理由	人数
図書委員になったから	4
読みたい本があったから	4
勉強をするため	4
調べ学習で利用したから	3
本をよく読んでいたから	3
たくさん本があるから	2
本がたくさんあって、わくわくしたから	2
友達に勧められたから	1
親に連れていってもらったから	1
図書館に初めて行ったから	1
本が好きになったから	1
図書館が家に近いから	1
図書館の掃除当番になったから	1
雰囲気が好きだったから	1
暇だったから	1

〈中学校〉　27名

理由	人数
勉強に利用した	5
本をよく読んでいたから	4
たくさん本があるから	3
静かで落ち着くから	2
近くに図書館があったから	2
読みたい本があったから	2
図書館に興味があったから	1
図書委員になったから	1
無料で借りられるから	1
国語ができなかったから	1
友達と行くようになったから	1
夏は涼しいから	1

〈高等学校〉　10名

理由	人数
勉強に利用した	4
友達に誘われたから	1
図書委員になったから	1
本を読むきっかけができたから	1
おもしろい本を探したいから	1
好きな作家がいたから	1
静かに一人で読書したいと思ったから	1

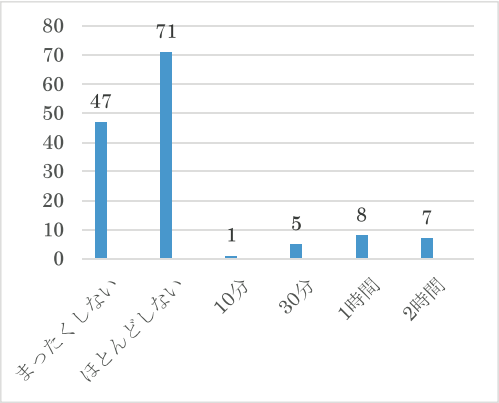
〈大学〉　9名

理由	人数
勉強に集中できるから	1
便利だから	1
たくさん本があるから	1
くつろげるから	1
学問に興味がでてきたから	1
パソコンが使えるから	1

小学校低学年で34.4％、小学校高学年で26.7％、あわせて約6割の学生が、小学生の間に図書館を意識していることがわかった。その多くの理由は、「小学校に図書館があったから」「図書委員になったから」であるが、「好きな本があったから」「本がたくさんあって、わくわくしたから」「雰囲気が好きだったから」という理由からは、昨今若者の読書離れが指摘されるなか、図書館という空間を味わい、図書館の楽しさを実感していることがわかり、うれしく思った。

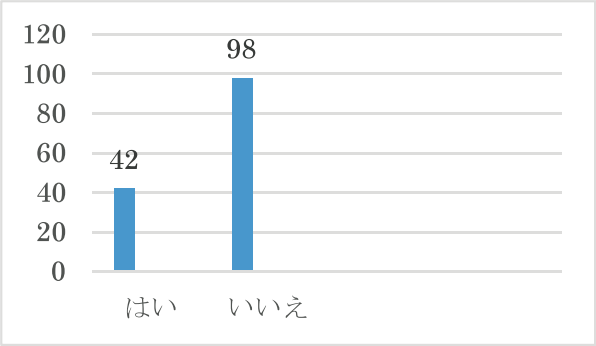
中学校、高等学校、大学になると、「勉強に利用した」「勉強に集中できるから」という理由が多くなり、読書目的ではなく、図書館を学習する場所として利用していることがわかった。

（３）１日にどれくらい読書（マンガ、教科書、参考書は除く）しますか。



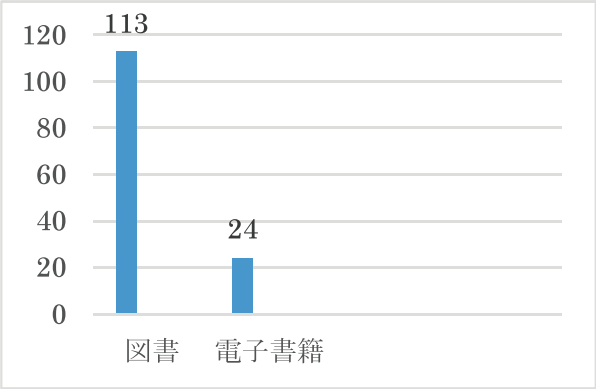
学生生活実態調査によると、１日の読書時間は平均28.8分で、「30分未満」は10.6％、読書時間「０」は45.2％であった。[2] 今回の調査では、読書を「まったくしない」が33.8％、「ほとんどしない」が51.1％であった。これらをあわせると、約85％の学生が読書をしていないことがわかり、学生生活実態調査と比較すれば、読書をしていない学生が多いことがわかった。

（４）電子書籍を読みますか。



電子書籍を「読む」は30％、「読まない」が70％であり、大学生はスマートフォンや電子書籍に慣れ親しんでいると思っていたので、予想とは違い意外な結果であった。

（５）図書と電子書籍ではどちらが読みやすいですか。



〈図書〉　113名

理由	人数
電子書籍は目が疲れる	30
図書は目が疲れにくい	15
紙の方が本を読んでいる実感や達成感があるから	11
読み返すときに、すぐページがめくれるから	7
ページをめくる感じが好き	7
電子書籍を読んだことがない	7
読みやすいから	6
読み慣れているから	5
実際に本を手にとって読めるから	5
電子書籍は扱いにくい	4
電子書籍に苦手意識がある	3
本特有の匂いが好き	3
読みたいところがすぐに読める	2
図書の方が本を読もうとする意欲がわく	2
充電の心配をする必要がない	2
本の厚み・重みがあるから	2
図書の方が落ち着く	1
家に本がたくさんあるから	1
手元にある方が安心する	1
触れてあたたかみを感じるから	1

〈電子書籍〉　24名

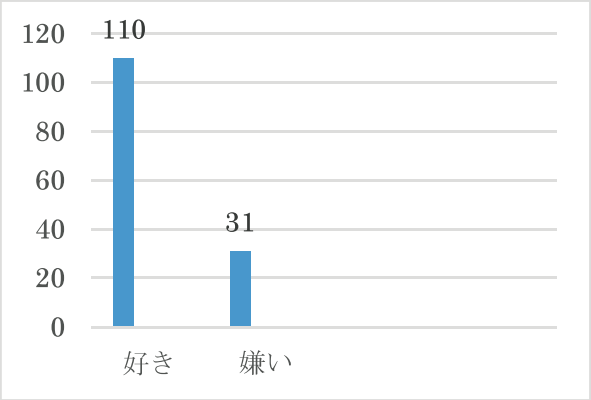
理由	人数
どこでも読めるから	5
手軽に読めるから	3
持ち運びやすい	3

すぐに読めるから	2
かさばらないから	2
文字を拡大できるから	2
わかりやすい	1
カラーだから	1
ページをめくるのが楽だから	1
電気をつけなくても読める	1
あおむけの状態で読めるから	1
本の活字は読まないから	1
パソコンの方が慣れているから	1
個人的に見たいものを見ることができるから	1

（4）の質問で、「電子書籍を読む」と答えたのは、30％の学生であったが、「読みやすさ」になると、「電子書籍」と答えたのは17.5％であった。読みやすいと答えた理由には、「すぐに、手軽に、どこでも読める」「持ち運びやすい、かさばらない」が多かった。便利・手軽・コンパクトという若者が求めていること、すべてが備わっているようだ。

「図書が読みやすい」と答えたのは82.5％であり、「電子書籍は目が疲れる」「図書は読み慣れている、読みやすい」という現実的な理由と、電子書籍の便利さ・手軽さに読みやすさを感じている学生とは異なり、「本を読んでいる実感がある」「ページをめくる感じが好き」「本特有の匂いが好き」「本の厚み・重みがあるから」「触れてあたたかみを感じる」など、図書で読書するという雰囲気を味わい楽しんでいる様子がうかがえた。

（6）読書は好きですか、嫌いですか。



〈好き〉　110名

理由	人数
おもしろい	14
本の世界に入れるから	9
知識が広がるから	9
楽しい	7
夢中になれるから	7
興味のある本があるから	5
考えさせられることがあるから	5
暇つぶしになるから	4
リラックスできるから	4
他人の考えを知ることができるから	4
読み始めたら止まらないから	3
感性が磨かれるから	3
自分の世界に入れるから	3
学ぶことが多いから	3
読むことは好きだから	3
想像が広がるから	2
新たな発見があるから	2
親から読書する環境をつくってもらったから	2
いろいろな作品を読むことができるから	1
物事の見方が変わるから	1
疑似体験できるから	1
心が動かされるから	1
自分のペースで読めるから	1
好きなことに理由はいらない	1
ハマったら好き	1
嫌いではないから	1
よくわからないけど読みたいと思う	1
読みたいものがあれば読む	1
読み終わったあとのひとときが好き	1
好きだけど読み始めるのが面倒くさい	1
知らない言葉を覚えらえるから	1
日本語表現の勉強になるから	1

〈嫌い〉　31名

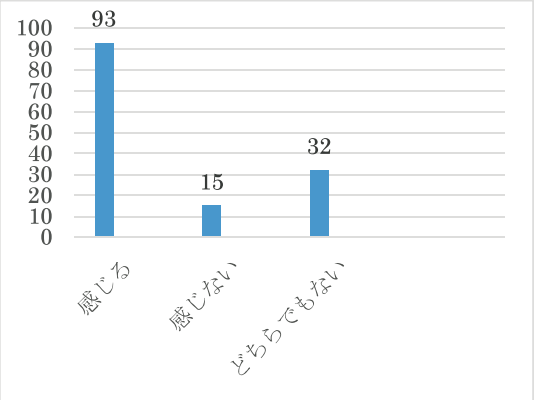
理由	人数
読むのが面倒	3
疲れる	2
目が疲れる	2
時間がかかる	2
字を読みたくない	2

文章を読むのが嫌い	2
読書に親しんでいなかったから	2
楽しくない	1
肩がこる	1
読む時間がない	1
長い	1
内容が入ってこない	1
絵がない	1
興味のある内容でないと読む気にならない	1
好きになる理由がみつからない	1

読書が「好き」と答えたのは78％で、理由は「おもしろい」「楽しい」と、純粋に読書を楽しむ理由にとどまらず、「知識が広がる」「本の世界に入れる」「学ぶことが多い」「夢中になれる」「感性が磨かれる」など、人格形成、教養を得ること、知識を身につけることも目的としていることがわかった。

読書が「嫌い」と答えたのは22％で、理由は「目が疲れる」「肩がこる」「読むのが面倒」「時間がかかる」という、身体的な苦痛などによる否定的な理由が多く、読書することの価値、自分にもたらしてくれることなどは考えていないようだ。読書を否定的にとらえている学生は、読書することに慣れておらず、読書によって付随するもの、どのようなことが得られるのかなどを気づいていない、体験していないと推測できる。

（7）読書することに魅力を感じますか。



〈魅力を感じる〉　93名

理由	人数
知識を身につけられるから	15
本の世界観を楽しめる	9
想像力がつく	7
語彙力が増える	5
楽しいから	4
おもしろいから	4
勉強になる	4
自分にはない考えを知ることができる	4
暇つぶしになる	3
集中することができる	3
視野が広がる	3
知的に見える	2
かっこよく見える	2
時間を有意義に使っている気がする	2
新発見がある	2
本を読むのが好きだから	2
発想が豊かになる	2
文章力がつく	1
ストレス発散	1
趣味の一つだから	1
読んでみないとおもしろいかどうかわからないから	1
いろいろと考えさせられるから	1
相手の気持ちがわかるようになる	1
スマホでは得られないものが得られるから	1

〈魅力を感じない〉　15名

理由	人数
読みたい人が読めばいい	3
疲れる	1
よい本に巡り合わない	1
別にいらない	1
読むのを途中で諦めてしまう	1
よくわからない	1
体を動かした方がよい	1

〈どちらでもない〉　32名

理由	人数
読む機会がない	3
興味がない	2
読もうとは思わない	2

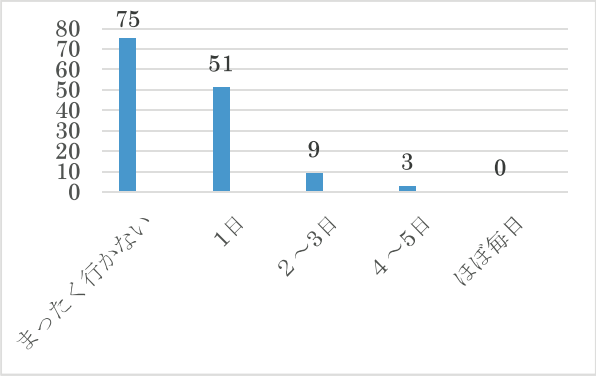
読みたい本があれば読む	2
特に気にしたことがない	2
時間がない	2
読むのが面倒	1
よくわからない	1
人それぞれだから	1

読書することに「魅力を感じる」と答えたのは66.4％であり、「ストレス発散」というような精神的安定をはかることを目的とする理由は少なかった。さらに、本の内容や作者に魅力を感じているのではなく、「知識を身につけられる」「想像力がつく」「語彙力が増える」「視野が広がる」といった、教養を身につけられる手段の一つとして魅力を感じているように推測する。

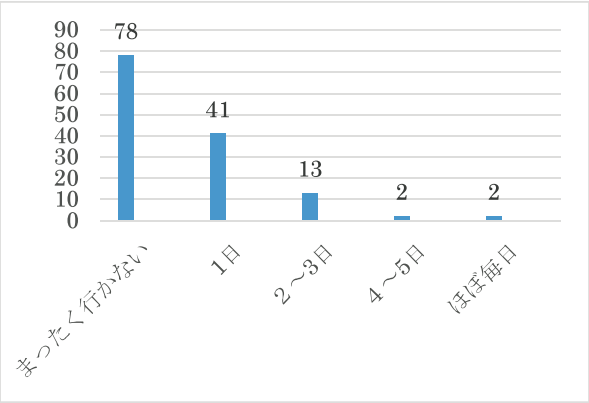
また、「知的に見える」「かっこよく見える」と本を読んでいる姿、外見に魅力を感じるという理由もあった。

「魅力を感じない」は10.7％、「どちらでもない」は22.9％で、あわせて33.6％である。「読みたい人が読めばいい」「別にいらない」「興味がない」という理由から、読書によって何か影響を受けた、志を持てたなど、読書による「心の変化」「心の成長」をまだ受けていない、感じていない学生の気持ちであると推測される。

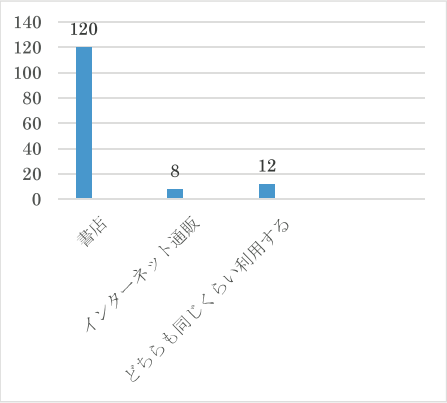
（8）平均すると１週間のうち、だいたい何日くらい書店に行きますか。



（9）平均すると１週間のうち、だいたい何日くらい図書館に行きますか。



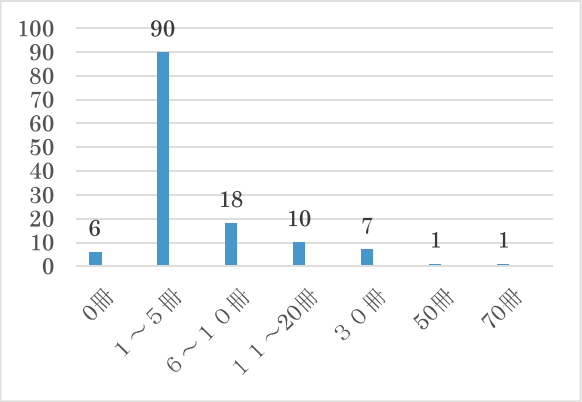
（10）本は、書店とインターネット通販のどちらで購入しますか。



78％が「読書は好き」、66.4％が「読書することに魅力を感じる」と答えているにもかかわらず、１週間のうち、書店に「まったく行かない」が54.3％、図書館に「まったく行かない」が57.4％であり、半数以上が書店にも図書館にも行っていないことがわかった。さらに、「１週間に１日程度」書店に行くのは37％、図書館に行くのは30％であった。書店や図書館に頻繁に足を運んでいる学生は少ないことがわかった。この結果から、近年、インターネットを通じて図書を購入する人が多いので、インターネット通販で購入するので、書店に行かないのかと予想した。よって、図書購入について尋ねると、書店での購入が85.7％、インターネット通販での購入が5.7％であり、予想とは異なった。これらのことから、学生は読書が好きで、魅力も

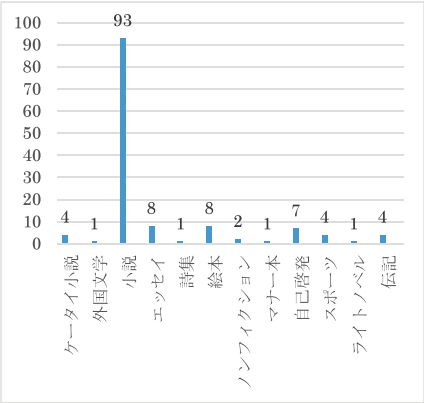
感じている。しかし、約85％の学生が読書をしていない。これらの結果から、読書が好きで魅力は感じながらも読書をする習慣がなく、本と出合える書店にも図書館にも行っていないことがわかった。

（11）この１年間でだいたい何冊くらいの本を読みましたか。



この１年間で読んだ本が「０冊」は4.5％、「１～５冊」は67.7％、「６～10冊」は13.5％であった。これらをあわせると85.7％の学生が１カ月に１冊も読んでいないことがわかった。今回の調査は１年生にしたので、高校３年生の受験の時期も含まれるので、読書する時間が十分にとれなかったことも予想される。それにしても、読書をしていないことがよくわかる結果になった。

（12）書評ではどのようなジャンルの作品を選びましたか。



書評は読書感想文とは違い、感想だけではなく、内容の魅力や特徴などを書くよう指導した。よって、「読みやすさ」、「映画やドラマになった作品」などを選ぶ傾向が強く、69.4％の学生が「小説」を選んだ。

（13）書評を書くのは、どうでしたか。（複数回答可）

〈本の良さや魅力などを表現するのが難しかった〉　73名

理由	人数
内容などを表現するのが難しかった	8
自分の言葉で表すのが難しかった	7
魅力を伝えるのが難しかった	6
どのように伝えるか難しかった	5
うまくまとめることができなかった	4
人に伝えるのは難しい	2
文章を書くのが苦手だから	2
語彙力がない	2
文章力がない	2
本のおもしろさを伝えることの大切さを実感したから	2
説明がうまくできなかった	2
書評を初めて書いたから	2
文章の構成を考えるのが大変だった	1
限られた字数で表現するのが大変だから	1
言葉選びが難しかった	1

〈書くのがたいへんだった〉　40名

理由	人数
文章を書くのが苦手だから	6
人に伝えるように書くのが難しかった	4
何と書いたらいいかわからなかった	3
まとめるのが大変だった	3
読書感想文と書き方が違ったから	3
言葉の選び方やつなげ方が難しかった	2
書き進まなかった	1
なんとなく	1

〈楽しかった〉　28名

理由	人数
相手に伝えるのは難しかったが、楽しかった	2

おもしろかった	2
自分の好きな本を他人におすすめできるのは、うれしい	2
文章を書くのは楽しかった	1
本の魅力を深く感じることができた	1
本の内容を再認識することができた	1
本の印象を人に伝えたかった	1
他の人にもこの本を読んで、楽しんでもらいたかった	1
自由に書くことができた	1
自分の考えが言葉になるのが楽しかった	1
好きな本について自分の意見を書けたから	1
書き終わったら達成感があった	1
本を愛しているから	1
別の視線から読めたのがよかった	1
好きな本だったから	1
作者の考えを共有するのがよかった	1
なるほどと思えることがたくさんあった	1
久しぶりに絵本を読めたから	1

〈本を選ぶのがたいへんだった〉　25名

理由	人数
本がたくさんあるから	2
書評を初めて書くから	2
どんな本が書きやすいのかがわからなかった	2
書きやすい本がなかったから	1

〈本を読むのがたいへんだった〉　21名

理由	人数
途中で眠くなった	2
読む時間があまりなかった	2
普段読まないので、読むのがたいへんだった	2
読む文字が多く長かった	2

〈楽しくなかった〉　7名

理由	人数
本が嫌いだから	1
書評を書いている人の気持ちになれたから	1

〈何とも思わなかった〉　7名

理由	人数
興味がない	2
ふつうすぎる	1
期限を決められて、本を読んで書くのが嫌だった	1

〈他人を評価するのは難しい〉　1名
理由の記載なし

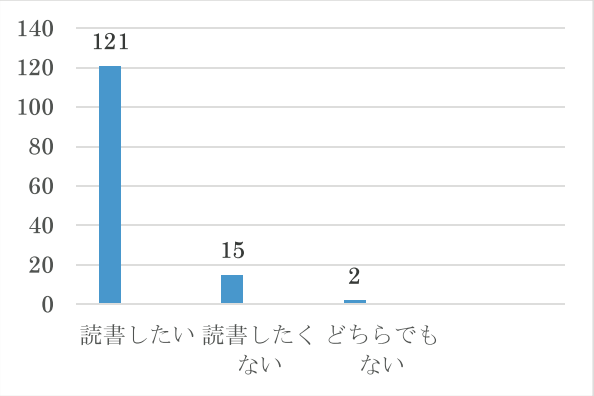
「書くのがたいへんだった」は19.8％であった。「文章を書くのが苦手」「人に伝えるように書くのが難しかった」「何と書いたらいいかわからなかった」という理由があり、書評を書く以前に、文章を書くこと自体に苦手意識があることがわかった。

「本の良さや魅力などを表現するのが難しかった」は36.1％であった。「内容などを表現する」こと、「自分の言葉で表現する」こと、「魅力を伝える」こと、そして、「どのように伝えるか」が難しかったようだ。本の良さや魅力は十分理解できるのだが、それをどのような言葉で表し、どのような表現をすればよいのか、どのように構成すればよいのか、悩んでいる学生は多かった。

このような中で、13.9％が「楽しかった」と答えた。「本の魅力を深く感じることができた」「自分の好きな本を他人におすすめできるのはうれしい」「自分の考えが言葉になるのが楽しかった」「書き終わったら達成感があった」とあり、本を読むこと、本の魅力を感じること、さらに、自分の思いを人に伝えることの難しさを感じながらも、書くことを楽しんだことがわかった。

反対に、3.5％が「楽しくなかった」、「何とも思わなかった」と答えた。「本が嫌いだから」書くのが苦痛であったのだろう。書評を書くことは、読書が好きな学生は苦しみながらも、本についての新たな発見や魅力を感じてくれたであろうが、読書が苦手な学生にとっては、ただ苦痛なことであったと推測できる。

(14) 今後、読書をしたいと思いますか。



〈読書したい〉　121名

理由	人数
おもしろいから	10
知識を得られるから	10
好きだから	9
楽しいから	8
学ぶことがたくさんあるから	8
読みたい本がある	6
時間があれば読みたい	6
興味のあるものがあれば読みたい	5
集中できるから	4
視野を広げたいから	4
いろいろな本を読みたい	3
好きな作家がいるから	2
自分の役に立つから	2
スマホより本を読んだ方がいいと思う	2
リフレッシュできるから	2
今はあまり読書しないので、これからしていきたい	2
落ち着けるから	2
世間知らずだから	1
しないよりした方がいいと思う	1
読書することはよいことだから	1
まだ読んだことのないジャンルがあるから	1
読んでない本がたまっているから	1
好評の本を読んでみたい	1
引き込まれる本に出合いたい	1
新しい発見ができるから	1
今後の糧にしたい	1
文章を速く読めるようになりたいから	1
活字を好きになりたいから	1
語学力をあげたいから	1
表現力がつく	1
文章力がつくから	1
読解力を身につけたい	1
嫌いではないから	1
いつでも読めるから	1
ボケ防止	1
暇つぶし	1
なんとなく	1

〈読書したくない〉　15名

理由	人数
本が嫌い	2
読みたい本がない	2
つまらない	2
読むのに時間がかかるから	1
読書より体を動かしたい	1
忙しい	1
面倒くさい	1

〈どちらでもない〉　２名
理由の記載なし

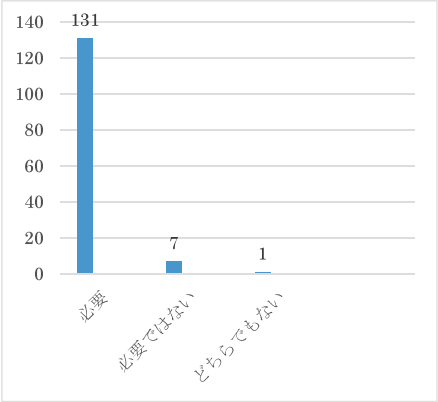
今後「読書したい」と87.7％の学生が答えた。今は読んでいないけれども「時間があれば読みたい」「興味のあるものがあれば読みたい」と今後の展望を示す理由があった。「知識を得られる」「学ぶことがたくさんある」「視野を広げたい」という、知的向上を目指している理由も多くあった。

「表現力」「読解力」「文章力」という国語力の技術を身につけたいという理由があった。さらに、「暇つぶし」「ボケ防止」「落ち着ける」「リフレッシュできる」など、気分転換として使いたいという理由もあった。「しないよりはした方がいい」「読書することはよいことだから」という、気は進まないがした方がよいという、消極的なものもあった。これらのように理由はさまざまだが、「読書をしたい」と思っている学生が多いことはわかった。

今後「読書したくない」と答えたのは10.9％で、「本が嫌い」「読みたい本がない」「つまら

ない」「面倒くさい」という理由から、読書に対する意欲がまったく感じられなかった。

（15）今後（大学生として、社会人として）のことを考えると、読書は必要だと思いますか。



〈読書は必要〉　131名

理由	人数
知識が身につく	26
社会勉強になる	12
多くのことを学べる	10
いろいろな人の考えがわかる	9
教養が身につく	7
語彙力が身につく	6
文章力が養われる	5
読解力が身につく	5
漢字の勉強になる	5
想像力を養える	5
国語力がつく	3
情報を得られる	3
感受性を養うことができる	3
心が豊かになる	2
視野が広がる	2
集中力がつく	2
表現力が身につく	2
コミュニケーション力を身につける	2
活字を読むのは必要	2
文章を読むのは大切	2
自分の考えを深めることができる	2
常識	2
ゆっくりする時間も大切	2
生涯学習の一環だから	1
心を成長させてくれる	1
役に立つ	1
考え方が変わるかもしれないから	1
人生が広がる	1
経験力が高まる	1
知性を養える	1
興味の幅を広げることができる	1
日本人として大切	1
読書しないと疲れるから	1
携帯ばかり触っているから	1
暇つぶしになる	1

〈読書は必要ではない〉　7名

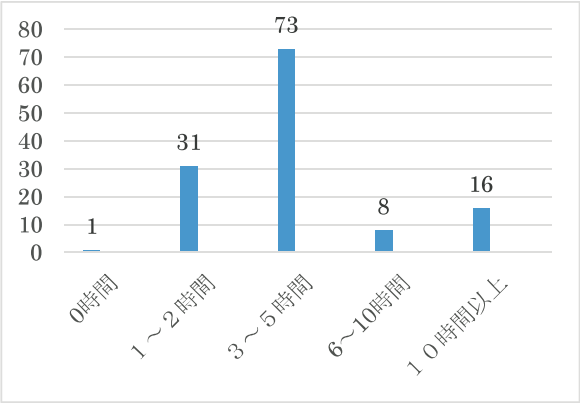
理由	人数
ネットがあるから	1
人によると思う	1
忙しくて読書どころではない	1
テストに必要なときだけでいい	1
なんとなく	1

〈どちらでもない〉　1名

理由の記載なし

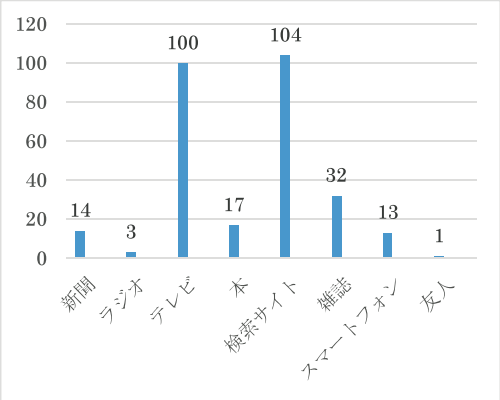
今後のことを考えて、読書が「必要」と答えたのは、94.2％であった。「知識」「教養」が身につくという理由のほかに、学生として必要な「漢字」「語彙力」「文章力」「読解力」、社会人として必要な「経験力」「コミュニケーション力」が身につくというものである。その他に、「生涯学習の一環」「人生が広がる」「視野が広がる」「社会勉強になる」といった人格形成につながる理由が目立った。さらに、「心が豊かになる」「心を成長させてくれる」といった、人間性や感性を磨くための手段の一つととらえていることもわかった。

（16）１日にスマートフォンはどのくらい利用しますか。



学生生活実態調査によると、１日のスマートフォン利用時間の平均は155.9分であり、「０分」は2.3％であった。[2] 今回の調査では、多くの学生が「読書は必要である」と考えているにもかかわらず、スマートフォンの利用時間は１日のうち、「３～５時間」は56.6％、「１～２時間」は24％、さらに「10時間以上」は12.4％もいた。本調査の対象学生は平均261.6分で、学生生活実態調査の平均155.9分と比べると、100分ほど利用時間の長いことがわかった。便利さ、手軽さからスマートフォンに依存している学生は多い。この結果と、１日もしくは１年間の読書量の少なさは相関関係にあると考えられる。

（17）情報を得る手段として利用しているものは何ですか。（複数回答可）



〈新聞〉　14名

理由	人数
手軽だから	2
すぐに情報を得られるから	2

〈ラジオ〉　３名

理由の記載なし

〈テレビ〉　100名

理由	人数
身近だから	13
すぐに情報を確認できるから	10
いつも見ているから	9
手軽だから	4
いつもつけているから	4
わかりやすいから	3
見るだけでいいから	2
家にあるから	2
テレビしかないから	2
多くの意見や考えを知ることができるから	1
他のことをしながら見ることができるから	1

〈本〉　17名

理由	人数
多くの意見や考えを知ることができるから	1
すぐに情報が入るから	1
わかりやすいから	1
身のまわりにあるから	1

〈検索サイト〉　104名

理由	人数
すぐに情報が入るから	18
身近だから	10
手軽だから	8
いつも見ているから	7
わかりやすいから	5
スマートフォンは手元にあるから	4
パソコンで情報を得るから	2
テレビがないから	2
多くの意見や考えを知ることができるから	2

幅広い情報が得られるから	2
新聞をとってないから	1
好きだから	1
速いから	1
利用しやすい	1
便利	1

〈雑誌〉　32名

理由	人数
よく手にするから	3
簡単に情報が入るから	2
わかりやすいから	2

〈スマートフォン〉　13名

理由	人数
いつも持ち歩いているから	3
多くの情報を得られるから	2
歩いている時間に活用できるから	1
よく見るから	1

〈友人〉　１名
理由の記載なし

情報を得る手段として「テレビ」が35.2％、「検索サイト」が35.6％であり、「新聞」は4.9％と少なかった。この結果からも、身近にあり、手軽に利用できる「テレビ」「検索サイト」が、学生の生活に密着していると考えられる。

４．まとめ

本を意識するようになった理由として、学校で「読書の時間があったから」とある。今回調査した大学がある福岡県と熊本県での朝の読書実施率は、福岡県は小学校84％、中学校83％、高等学校69％であり、熊本県は小学校73％、中学校85％、高等学校73％[3)] であった。いずれの県も小学校から高等学校にかけて大半の学校が、朝の読書に取り組んでいることがわかる。これらの取り組みにより、学生たちには読書の習慣が根付いていると考えられる。それにもかかわらず、大学生になると読書の習慣が途絶えている。その理由として、専門の勉強が忙しくなる、アルバイトに時間が割かれるなど、さまざまな理由があると考えられるが、「読書は必要である」と思っている学生が多い中、読書したいという気持ちと、現実との食い違いが生じているようである。

今回の調査の中から、それぞれの問いを総合しながら、３名の例をみていく。

Ａさん→この１年間で読んだ本は０冊。読書はまったくしない。読書は嫌い。読書に魅力も感じない。読みたい人が読めばいい。書店も図書館も行かない。書評を書くのは楽しくなかった。今後のことを考えると、読書は必要だとも必要ないとも思わない。

Ｂさん→この１年間で読んだ本は30冊。自分の世界に入れるから読書は好き。しかし、魅力は感じない。書店は行くが、図書館には行かない。読書は時間つぶしにも、趣味にもなるから、必要である。読書は楽しい。

Ｃさん→この１年間で読んだ本は50冊。読書は好きで、おもしろいので読書はしたい。しかし、読書に対して魅力というのは特に感じない。インターネットがあるので、今後、読書は必要ない。スマートフォンは１日に５時間利用している。

以上のように、読書量の違う３名の例を挙げた。３名に共通していたのは、「読書することに魅力を感じない」ということである。読書しない学生が魅力を感じないのは理解できるが、読書している学生が読書は好きだが魅力を感じないというのは、予想に反する答えであった。

今回の調査をする前に、本を読むこと、内容を理解しその魅力を伝えることを目標として、学生は書評を書いた。熊本の大学では、学内の書評コンテストに応募すること、福岡の短期大学では、書評集をつくることを目標にした。書評集は学生らの希望により、冊子にまとめた。普段読書をしない学生が、１冊の本を集中して読んだ。趣味の一環として気楽に読むこととは違い、先には書評を書くという前提があるため、普段の読書とは勝手が違ったようである。しかし、書評を書いた感想の理由にあったように、

内容を見つめ、本の良さに気づく、という１冊の本にじっくりと向き合うことができたのではないか。本を読むことの楽しさに気づいてもらえる一つの手掛かりになったのではないかと思われる。さらに、本を読みたいという意志、１冊の本を読み上げる忍耐力、持続力を鍛える手段にもなり得たと考える。

授業の中で書評を書くといった取り組みをすることは、自発的に読書をしない学生が読書をすること、さらには、読書の魅力を感じてもらう機会を与えることにつながり、このような場を提供する必要性もあると分析した。今後は、学生の読書を推進していくために、大学教育の中で環境作りを整えていくことが課題である。

謝辞

本研究にご協力いただいた学生の皆様に心より感謝いたします。

注

1) 書評を書くにあたって、事前に新聞に掲載された書評について学習した。書評を書くことを目的として、本を選び、１か月ほど時間をかけて書評を書いた。
2) 全国大学生活協同組合連合会（2016）「第51回学生生活実態調査の概要報告」「３．日常生活について（１）勉強時間・読書時間・スマートフォン利用時間」
3) 朝の読書推進協議会による調査（平成27年７月６日現在）

参考文献

1) 佐藤由紀、近森節子、酒井克彦（2007）「大学生の読書実態と生協組織を通じた学生主体の読書推進運動の構築」大学行政研究２号　pp. 61-73
2) 高木悠哉、松岡律、熊田岐子、住本克彦、筒井愛知（2012）「大学教育への導入に読書を用いることの有効性に関する試験的検討」環太平洋大学研究紀要５巻　pp. 69-77
3) 平山祐一郎（2004）「大学生の読書量の分析」東京家政大学研究紀要　第44集　pp. 117-125
4) 堀薫夫（2001）「大学生の読書と電子メディア利用に関する調査研究―読書とインターネットの親近性―」大阪教育大学紀要　第Ⅳ部門　第50巻　第１号　pp. 147-156